

横浜市小学校社会科研究会

3学年部会

## 研修会記録

第 7 号

令和5年 1月 10日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 権正 倫範

【提案日時】

12月 6日(水)

提案 三浦 智 先生(高舟台小)

【会 場】

横浜市立高舟台小学校

司会 田川 晋啓 先生(山元小)

記録 小野寺 征也先生(稲荷台小)

### 1 提案内容

単元名「地域の安全を守る～高舟台のまちを火事から守るには～」

### 2 提案者より

#### ○自評

- ・まちを通して学習したことで、消防の仕組みのよさやすさを理解するよさが見られた。
- ・様々な共通体験をすることで、発達段階に適した追究意欲をもつことができていた
- ・本時で考える内容が拡散してしまうような学習問題になっていた。子どもの言葉を大切にすることは重要であるが吟味が必要である。
- ・中心資料でなにをどのように考えるかが、子どもにとって分かりづらかった。考えを板書で整理、分類することでより分かりやすくなったのではないか。

### 3 協議会

質問「本時の学習問題の変更について」⇒訓練と現場での活動の違いを見ていく中で子ども問いが生まれたので、子どもの言葉で学習問題を作っていた。

「交通整理の内容は子どもたちはどのように理解していたか」⇒消防団方の話から、理解をした。

### 視点①について

#### ○学級全体で共通体験を行う手立てについて

学習の中で、みんなでまちを歩いたり、人の営みに触れる経験をしたりすることで、単元の中でどの子ども問いをもち、考えられるようになっていた。

#### ○消防のフィルタで地域を見直す手立てについて

今まで学習してきた、子どもたちに身近なまちを、消防のフィルタを通して見直すことで、実際に火事があったときにどのように消火をするのか、という問いにつながった。

### 視点②について

#### ○学習問題について

学習問題を子どもの言葉で作りに上げていくよさはあるが、本時目標を達成するために文言の吟味は大切。今回の学習問題で行くのであれば、板書や問い返し、既習の確認等で子どもの発言の根拠や立場を整理分しながら、進めていく必要があったのではないか。

○資料の具体性について

ペープサートを使った資料で、具体的にどの子も考えることができる資料であった。資料を見た後の教師の発問をさらに具体的にしたり、子どもの考えに問い返したりすることで、より本時目標に迫る姿が見られたのではないか。

<講師の先生より>

南部学校教育事務所 授業支援員 中村 智先生

○3年生で消防単元で大切なことについて

4年生と違って、市全域を捉えることはかなり難しい。だからこそ、まちを通して考える単元づくりにするよさがあった。その中で、三浦先生がまちの特徴（主要道路の少なさ、道幅の狭さ、初期消火箱の位置、階段の位置など）をつかみ、子どもと見ていったことで、自分事として学習に臨んでいた。

○学習問題に対する子どもの考えを、教師が整理することについて

本時の学習問題には様々な考える視点があった。「なぜ整理しているのか」「なぜそれを消防団がやっているのか」「なぜ訓練をしていないのにやっているのか」、それぞれの考えを分類して板書に位置付けることで、子どもの思考を整理することができる。思考が多岐に渡る場合は教師がコーディネートしていく必要がある。

関東学院大学准教授 西川 健二 先生

○子どもたちの姿について

それぞれの児童が、学習問題について考え、解決しようとしている姿が見られた。特に、交通整理の訓練をすべき、という考えにこだわりをもって真剣に向か合っている児童が素晴らしかった。社会科の授業ではそうしたこだわりをもてる児童を育てていきたい。

○人の営みに学ぶことについて

単元の中で、まち歩きをしたり、消防署の方や消防団の働きを丁寧に学んだりしていくことで、子どもが人やその営みに寄り添い、すばらしさを実感していた。

○子どもの言葉で作った学習問題が本時目標達成のために適切であったか。

「交通整理の訓練はしていないのに～」という文言は、交通整理の重要性を考えづらかった。本時の中では、交通整理の重要性を表現している児童、交通整理の訓練をすべきだと表現している児童がいた。その児童に「重要なのにどうしてしていないのかな」といった問いの背景を明らかにする問い返しをしていくことで、立場の違う児童と、より協働的に学ぶ姿が見られたのではないか。

文責 権正 倫範（牛久保小学校）